

# 成人式々場

# 未来へ



会場は晴れ姿の新成人で華やかな雰囲気

## 「二十歳の私」



坂崎泰子さん  
(上町5)

くれたのは確かに母である。いつになったら、親孝行ができるのだろうかと思う。母は私を大人だと認めてくれるのだろうか？多分、ずっと子供だと思い続けていくと思う。只ひとつ、「善」と「悪」の区別だけはわかる大人でありたい。周囲に流されず、自分を持ち続けたいと思う。母もそう思うに違いない。

これからの私は、社会の一員となる。後悔のない人生は難しいが、その後悔が私を一步步、大人に近づけていくとくれると思う。

二十年間を生きてきて、あっというまに大人に辿り着いた。でも、私の中で大人になったという実感は何ひとつなく、いつまでも子供のままだと感じている。久しぶりにあった友達、女の子は綺麗で男の子はカッコよくなっているとても驚いた。すっかり、女性と男性と呼ばれる大人に成長していた。二十歳になったからといって、自分の生活は何ひとつ変わることはない。

しかし、それは自分だけで、周囲からはしっかりと大人だと見られているに違いない。それは私にとっては、とても不安に感じるのだ。自分では子供だといつまでも感じ、社会は大人だと認めている。そのギャップを乗り越えていくことが私の二十歳の目標なのかもしれない。

今まで私は、家族にとっても迷惑をかけ面倒を見てもらった。特に母には「ありがとう」と言いたい。何度言っても足りないけれど、私を支え助けて



# 私たちが成人の

